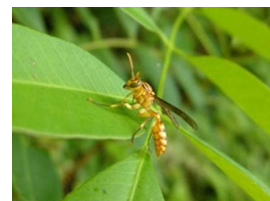


紙づくり

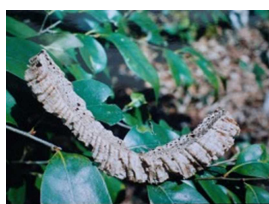
1. ムモンホソアシナガバチ

危険な昆虫という目で見られているハチですが、多様な生活様式を持ったグループで、葉を食べるハバチ(葉蜂)と肉食のスズメバチやアシナガバチが含まれます。飛ぶ時に長い脚をぶら下げているのがアシナガバチです。人家の周りには、セグロアシナガバチやフタモンアシナガバチが多いのですが、低地の山林で見られ、打吹山でも遭遇するのがムモンホソアシナガバチです。

名前通りスマートな小型のアシナガバチですが、刺されると一番痛かった思い出があります。しかも突然にチクッとくるのです。突然の理由は巣の位置にあります。木やササの葉の裏側といった低い位置に巣が付いているため、人の視線からは陰になってしまうのです。しかも藪の中です。葉裏に巣をつける習性は、巣の材料が樹皮の繊維をかみ取ったもの、いわばパルプで作った紙と同じですので、雨に濡れて崩れてしまわないための工夫です。これは、スズメバチやアシナガバチも共通です。



タブノキ葉裏の初期巣

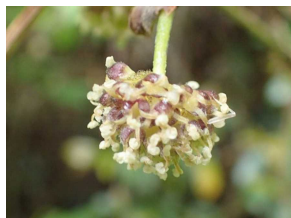


不要になった巣

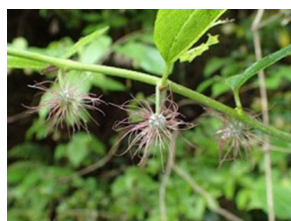
春に女王蜂1匹で始めます。営巣後、すぐに卵を産み、働きバチが羽化すると産卵に専念し、巣はどんどん横に拡張されていって舟のようになります。8月には最大となり、多数の働きバチの他に新女王バチや雄バチが生まれます。この時期が一番危険です。巣はこの後解散し、女王バチだけが越冬して翌年新規に巣を作るのです。植物にとっては強い味方です。

2. ヒメコウゾ

和紙の材料に使われるコウゾはヒメコウゾとカジノキの雑種といわれています。シュートとして立つ枝はかなり太く長くなりますから、昔、ヒメコウゾが使われていたというのも納得です。皮は簡単に剥ぐことができますし、剥いだ皮を手で引きちぎることは至難の技です。強い紙になるはずですが、枝の材はもろく、中心の髄は大きくて柔らかいです。クワ科に共通の性質です。葉に切れ込みのないものから3裂のものまであるところも同じです。



雄花



雌花

5月に開花しますが、新しく出た枝の元に近い葉腋には雄花、先の方に雌花がつけます。この花は集合花なので、個々の花は小さく、球状に集まります。雌花は7月に入ると濃いオレンジ色に熟し、美味しそうになりますが、味はどうでしょう。

鳥が食べるので美味いかと思えば、甘いのですが長く出ている雌しべの先が残り、種子もあって口当たりがよくありません。味も水っぽくイマイチです。果皮が弱く、すぐ破れて水分が出てしまうところもクワの実と同じです。

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2022)

